甲　第　号

加藤宜伸　学位請求論文

審　査　要　旨

奈　良　県　立　医　科　大　学

論文審査の要旨及び担当者

論文審査担当者	委員長	教授	中川　一郎
	委員	准教授	小川　宗宏
	委員（指導教員）	教授	田中　康仁

主論文

Accuracy and Reliability of Physical Signs as a Diagnostic Tool for Cervical Cord Compression: A Cross-sectional Study

頚髄圧迫を診断する身体所見の正診度と信頼性についての横断的研究

Yoshinobu Kato, Eiichiro Iwata, Yudai Yano, Munehisa Koizumi, Masafumi Araki, Takuya Sada, Takahiro Mui, Keisuke Masuda, Sachiko Kawasaki, Akinori Okuda, Hideki Shigematsu, Yasuhito Tanaka

雑誌名　Spine Surgery and Related Research

2025 年発行予定

論文審査の要旨

頚髄症の診断には、身体徴候でのスクリーニングが望ましいと考えられる。しかし、頚髄圧迫病変に対する代表的な上肢の身体徴候に Hoffmann 徴候、Trömner 徴候、Wartenberg 反射、Finger escape 徴候（FES）があるが、Hoffman 徴候以外の徴候の信頼度や FES の特異度に関しての報告はない。本研究は、頚髄症患者におけるこれらの身体徴候を横断的に評価して、それぞれの診断に対する感度、得意度、信頼度を明らかにすることを目的とした研究である。

頚髄圧迫病変を認める頚髄症患者と腰椎手術患者で上肢症状の既往がない例を対照群とし、4 つの身体徴候の感度、特異度、検者内信頼性、検者間信頼性を比較している。その結果、それぞれの特異度は高いものの、感度にはばらつきがあり、特に FES の感度と検者間信頼度は低値を示した。また糖尿病患者では、トレムナー徴候の感度が有意に低かった。しかし、4 つの身体徴候のいずれか 1 つが認められれば陽性と考えた場合に、感度 83%、特異度 79%であり、スクリーニングとして有用であることが分かった。

4 つの身体徴候を組み合わせることで感度が向上し、頚髄症のスクリーニング検査に有用であることが明らかになった。公聴会での受け答えも適切で、本研究結果は運動器再生医学の発展に大きく寄与しうると考え、参考論文と合わせて博士（医学）に値すると考える。

参　考　論　文

1. 当科における脊椎手術部位感染予防に対する取り組み

   小泉 宗久, 加藤 宜伸, 百田 吉伸, 中山 俊介, 庄司 遥, 田中 康仁.

   中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)65 巻 2 号 Page209-210(2022.03)

2. Severe complication subsequent to surgical site infection after cervical laminoplasty: a case report.

   Munehisa Koizumi, Yoshinobu Kato, Azusa Yoneda, Kensuke Okamura, Naoki Tsukada, Takahiro Mui, Yoshinobu Hyakuda, Haruka Shoji, Syunsuke Nakayama, Yasuhito Tanaka. Spinal Cord Series and Cases 2022 Jan 14;8(1):5.

3. 大腿骨近位部骨折手術に対する抗血小板剤内服の影響の検討

   上田 周一郎, 磯本 慎二, 小泉 宗久, 加藤 宜伸, 撫井 貴弘.

   中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)62 巻 5 号 Page873-874(2019.09)

4. 高度肥満透析患者に発症した腰椎化膿性椎間関節炎の 1 例

   加藤 宜伸, 小泉 宗久, 米田 梓, 塚田 直紀, 田中 康仁

   中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)60 巻 3 号 Page649-650(2017.05)

5. 腰椎インストゥルメンテーション手術における感染指標としての血液データの検討

岩田 栄一朗, 小泉 宗久, 中島 弘司, 飯田 仁, 加藤 宜伸, 田中 康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)56 巻 3 号 Page633-634(2013.05)

6. 治療に難渋した環軸椎回旋位固定の 1 例

賀代 篤二, 岩見 豊仁, 小泉 宗久, 飯田 仁, 加藤 宜伸, 田中 康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)55 巻 3 号 Page631-632(2012.05)

7. Posterior Fixation of a Cervical Fracture Using the RRS Loop Spine System and Polyethylene Tape in an Elderly Ankylosing Spondylitis Patient: A Case Report.

Munehisa Koizumi, Jin Iida, Hideki Shigematsu, Nobuhisa Satoh, Masato Tanaka, Tomohiro Kura, Shinji Tsukamoto, Yoshinobu Kato, Yasuhito Tanaka.

Asian Spine Journal 2012 Mar;6(1):60-5.

8. 脊椎インストゥルメンテーション手術後感染症例の検討

小泉 宗久, 飯田 仁, 加藤 宜伸, 倉 知彦, 田中 康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)54 巻 4 号 Page855-856(2011.07)

9. 短期間で頸椎と腰椎に破壊性変化をきたした透析性脊椎症の 1 例

小泉 宗久, 飯田 仁, 田中 誠人, 加藤 宜伸, 倉 知彦, 田中 康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)54 巻 1 号 Page93-94(2011.01)

10. 腰椎の側面 X 線写真における拡大率の誤差について　MRI との比較

重松 英樹, 小泉 宗久, 米田 正名, 飯田 仁, 加藤 宜伸, 田中 康仁

Journal of Spine Research(1884-7137)2 巻 1 号 Page84-87(2011.01)

11. 外傷性頸部症候群の治療終了後における臨床調査

小泉 宗久, 竹嶋 俊近, 飯田 仁, 松森 裕昭, 田中 誠人, 加藤 宜伸, 市居 幸彦, 田中 康仁

臨床整形外科(0557-0433)45 巻 11 号 Page981-985(2010.11)

12. 放射線療法後の脊椎固定術感染例に対して有効であった VAC 療法の 1 例

田中 誠人, 小泉 宗久, 飯田 仁, 松森 裕昭, 加藤 宜伸, 田中 康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)53 巻 5 号 Page1219-1220(2010.09)

13. 当科で経験した首下がり

田中 誠人, 植田 百合人, 小泉 宗久, 松森 裕昭, 加藤 宜伸, 田中 康仁

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)53 巻 1 号 Page221-222(2010.01)

14. 腰部脊柱管狭窄症の除圧術後に増大を認めた腰椎椎間板嚢腫の 1 例

加藤 宜伸, 米田 正名

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)51 巻 2 号 Page213-214(2008.03)

15. 胸椎椎間板ヘルニアに対する後側方進入法の治療経験

加藤 宜伸, 植田 百合人, 福井 潤, 宮崎 潔, 高倉 義典

中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443)47 巻 6 号 Page1177-1178(2004.11)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに運動器再建医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和７年３月４日

学位審査委員長

脳神経機能制御医学

教授　　中川　一郎

学位審査委員

スポーツ医科学

准教授　　小川　宗宏

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教授　　田中　康仁